

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520254

研究課題名（和文） マカリズム(幸いの宣言)の聖書学的・修辞学的研究

研究課題名（英文） A Biblical and Rhetorical Study of Makarisms (Beatitudes)

研究代表者

原口 尚彰 (TAKAAKI HARAGUCHI)

東北学院大学・文学部キリスト教学科・教授

研究者番号：60289048

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：マカリズム、幸い、修辞学、釈義、新約聖書学、黙示、知恵、倫理的勧告

1. 研究計画の概要

本プロジェクトは、新約聖書の中に出て来るマカリズム(幸いの宣言)の全般にわたる聖書学的・修辞学的考察を目指している。個々の使用例を文献学的に分析した後に、新約聖書のマカリズムの全体像を得る。

2. 研究の進捗状況

(1)平成19年度には文献収集と予備的考察として旧約・ユダヤ教におけるマカリズム(幸いの宣言)の考察を行い、知恵文学的マカリズム(幸いの宣言)と黙示文学的マカリズム(幸いの宣言)の2系列があることを確認した。

(2)平成20年度には、特に福音書文学に出て来るマカリズム(幸いの宣言)を個別的に分析した後に、それぞれの福音書の物語的文脈におけるマカリズム(幸いの宣言)の神学的・修辞的機能について考察した。

(3)平成21年度は、これらの考察を踏まえ、特に新約書簡文学におけるマカリズム(幸いの宣言)の性格を、聖書学的・修辞学的視点から考察した。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

今まで行って来た個々の関連箇所分析に基づいて、新約聖書中のマカリズムの使用例の全体像を明らかにし、研究を総括した結論を執筆する。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計9件)

原口尚彰「黙示録における幸いの宣言」『新約学研究』第35号、48-62頁、2007年、査読有

原口尚彰「Q資料における幸いの宣言」『新約学研究』第36号、4-16頁、2008年、査読有

原口尚彰「マタイによる福音書における幸いの宣言」『教会と神学』第47号、57-96頁、2008年、査読無

原口尚彰「ヤコブ書におけるマカリズム(幸いの宣言)」『ヨーロッパ文化史研究』第11号、109-130頁、2010年、査読有

原口尚彰「ヨハネにおけるマカリズム(幸いの宣言)」『基督教論集』第53号、37-52頁、2010年、査読有

[学会発表] (計3件)

原口尚彰「マタイ16章17節におけるマカリズム(幸いの宣言)」日本基督教学会第42回東北支部会、2008年6月14日、尚綱学院大学(宮城県)

原口尚彰「パウロにおけるマカリズム(幸いの宣言)」日本基督教学会第56回学術大会、2008年9月17日、関東学院大学(神奈川県)

原口尚彰「ヨハネにおけるマカリズム(幸いの宣言)」日本基督教学会第57回学術大会、2009年8月25日、北海学園大学(北海道)